

# 元マグロ漁船員救済待ったなし

1954年の3月1日、太平洋・ビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験のために被災した、いわゆる「ビキニ事件」。記録にあるだけでも、のべ約1000隻のマグロ船が被災しました。被災67年のことし、核兵器禁止条約が発効して初めての「3月1日ビキニデー」を迎えるのを前に、元マグロ漁船員たちの聞き取り調査を行っている高知県の「ビキニ被災支援室戸の会」の調査から見えてきたものは、

(加来恵子)

## 高知・ビキニ被災支援室戸の会が聞き取り

調査したのは室戸と室戸岬に籍を置いた11隻。元船員58人のうち直接話ができたのは23人です。ビキニ事件当時、港に水揚げする際のガイガーカウンター(放射線測定器)の検査で放射線反応があり、魚を海洋投棄させられた船です。

### 測定器あてられ

そのうちの一人、室戸市に住む「みさき丸」元船員の久保嘉作さん(90)は、「ビキニのことはあまり覚えちゃあせんけど、築地(東京)ではガイガーをあてられたことは覚えちゅう。それから銚子沖でマグロを捨てたけど、もったいないから、捨てる前にうまそうなところを切って食べた」と語りました。

久保さんと一緒に「みさき丸」に乗った久保栄明(ひであき)さん(1931年生まれ)は、事件当時、東京に入港し、前出の久保さんと散髪に行った先で、みさき丸が検査を受けているニュースを見ました。「船に戻ると体を調べられ

核なき世界へ  
禁止条約批准を

# 環礁から3520キロメートルでも影響



が、東京湾の外に捨てるよう指示され、三つに切って捨てた」と証言しました。ビキニ事件が起きた1954年4月10日付高知新聞にも、「室戸の漁船に相次ぐ放射能禍 みさき丸から検出 第2回水爆実験で被災か」という見出しで、船長の頭から200カウント、船橋から120〜140カウント、船員の体、衣服から30〜70カウントの放射能が検出された」と報じられています。

「みさき丸が操業していたのはビキニ環礁から西方2200キロ(3520キロ(1呎1.6キロ))。日本列島が約3000キロなので、それ以上離れたところでもこれだけの影響があったことに驚きます」



濱田郁夫さん

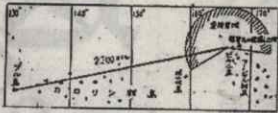
### 被害者は高齢化

核兵器禁止条約には、核実験被害者に対する援助と環境の修復、国際的な協力と援助が第6条と7条に明記され、その内容は締約国会議で話し合われることとなります。

濱田さんは「当時、室戸と室戸岬に登録していたマグロ船は合わせて約140隻。船員は約3000人と言われています。被害者は高齢化し、救済は待ったなしです。当時、検査を受けた船と乗組員のリストをもとに、県と市は調査をしてほしい。それが国際的にも求められていると思います」と語りました。

## 室戸の漁船に相次ぐ放射能禍 みさき丸から検出 第2回水爆実験で被災か

ビキニ 西方二千二百キロ



当時の新聞報道(濱田さん提供)